

一般社団法人サトヤマカイギ 「地域全体を教育先端都市に！持続可能な集落まるとDX事業」

■一般社団法人サトヤマカイギについて

一般社団法人サトヤマカイギは、石川県白山市の中山間地域にある白峰地域の持続可能なまちづくりの取り組みの実績を通じて、それらを横展開する目的で設立された。全国にある過疎化が進む地域を、**豊かな文化・自然を有する価値ある地域と捉え、地域の若者や全国の若者と共に、経済・環境・社会の調和を図る新しい社会の実現に向けたプロジェクト活動を推進している。**

そのプロセスの中で、多様な人材の新たな繋がりや、様々な挑戦を通じた新たな知見や経験の獲得、企業間の新たなアライアンス等、地域全体でのイノベーション力を高めると共に、その地域同士の繋がりを通じてSociety5.0に資する社会の実現を目指している。

【活動実績（一部）】

石川県白山市



- ✓ 地域全体を教育先端都市とし見立てる
- ✓ 連携企業が出資しまちづくり会社を設立
- ✓ 古民家を宿や教室、食堂として再生
- ✓ AIによる顔認証を用いた無人店舗の運営
- ✓ 企業研修の受け入れを実施
- ✓ 小中学校の研修の受け入れを実施

静岡県焼津市



- ✓ 出汁を中心としたまちづくりの実践
- ✓ 出汁を中心とした観光プログラムの開発支援
- ✓ 地元高校生がまちづくりのビジョンを策定
- ✓ 地元企業の経営支援
- ✓ 活動拠点焼津ポーターズの運営支援
- ✓ 地域外企業の誘致とミートアップの実践

長野県飯綱町



- ✓ 空き物件をテーマとしたまちづくりの実践
- ✓ 地元企業との連携
- ✓ リノベーションをテーマとした企業研修
- ✓ 地域外企業の誘致とミートアップの実践
- ✓ 山林地域を活かしたツリーハウス事業

■一般社団法人サトヤマカイギの学生コミュニティ「サトヤマミライカイギ」

サトヤマカイギでは、新しい社会の実現を目指している学生のコミュニティ「サトヤマミライカイギ」をサポートしている。中学生から大学生と全国の学生が参画している。**サトヤマカイギが展開する地域を、それぞれが有する思いやスキルを活かすフィールドとして位置づけ、各地域の創生事業に積極的に参画している。**参加している学生は約40名ほど。Art、Science、Engineering、Designと様々な領域に関心を持つ学生のコミュニティである。



■サトヤマカイギの地域創生におけるDXの基本的な考え方

**Technologyを
既存ビジネスの価値観に基づき
経済合理性の中で活用する**

經濟

経済・環境・社会の調和の価値観に
基づき新しい価値創造の中で
Technologyを活用する

經濟

社会

環境

首都圏等の経済発展都市の課題を白山麓地域が解決！

経済発展都市の人材のニーズ

次代を担う子供達への教育

社会人へのイノベーション教育

ニーズを満たすSDGs学習環境の整備

充実した社会・環境

A street view of traditional Japanese wooden buildings in a historic district, likely Kyoto. The buildings feature dark wood siding, white walls, and traditional tiled roofs. A street with a white crosswalk is in the foreground, and a blue sky with white clouds is visible above.

- ✓ 地域教育環境の高度化
- ✓ 教育インバウンドによる収入増
- ✓ 空き家等の利活用の促進
- ✓ 関係人口の増加
- ✓ 白山麓地域へのモデル展開

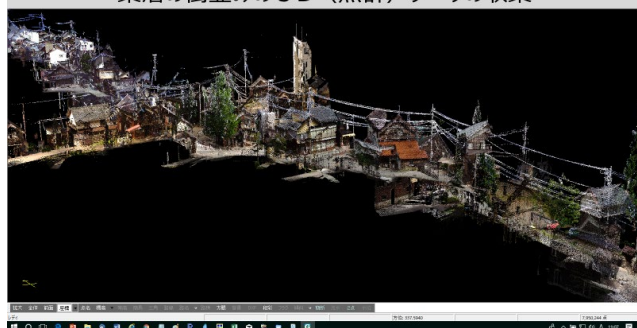
ゲームチェンジ・少ない余白の奪い合い・トレードオフ

共感の輪・新しい余白の創出・エコシステム

これまで経済的価値の側面から取り上げられてこなかった、豊かな自然・文化のリソースを価値と捉え、**それらのリソースを深掘り、様々な視点から見立て、経済的価値を含めて繋いでいく“ビジョン”と“ビジネスエコシステム”の創出が重要なポイントとなる**。ビジョンの創造には多様な人材が集うが、とりわけ、既存社会の価値観のバイアスを受けていない若者の存在が重要であり、世代・分野・文化の枠組みを超えた仲間を募りながら推進することを強く意識している。

■ 白峰地域の経済・環境・社会の調和を図るために文化・自然のリソースのデジタル化を地域として推進

集落の街並みの3D（点群）データの収集



地元のお年寄りの思い出話データの収集

[illegible]

白山麓から流れ出る伏流水の水質・水位のデータ収集



これらのデータを何に使うか？どのように使うか？についてはビジョンに共感頂いたステークホルダーの皆さんと共に考えていく

■アジャイル的にビジョン達成に向けたアイデアレベルの施策をまず実施し課題を洗い出す



既存経済の延長線上の価値観によってとらえられている課題ではなく、持続可能な地域のあるべき姿の実現に向けたPoCを実施し、課題を明らかにすることにより、課題解決に向けた解決策に対する投資を行うことが可能となる。

課題①

社会人（幹部）受入れ宿泊施設

企業研修における幹部向け研修を実施するにあたって古い旅館しかなく人事担当者からの要望に応える必要あり。
空き家を宿泊施設へとリノベーション



課題②

買い物難民の発生

ウィークデイに企業研修を誘致しても、担い手不足から定休日・営業時間の短縮により販売機会の損失
空き家をAI搭載無人店舗にアップデート



課題①

学校（地域）内の安全安心

小学生の研修を受け入れた際、子供たち単独でのフィールドワークが不安という声が寄せられる。
デジタルツイン実装での見守り（計画）



集落の街並みの3D（点群）データの収集

これら地域全体のマネジメントとオペレーションを実施する企業を発足し学生サポーターとの連携から運用を行っている。